

第4章 国・県・地域における観光の取り組み

十和田八幡平国立公園を管理する環境省に、十和田湖観光について伺いました。

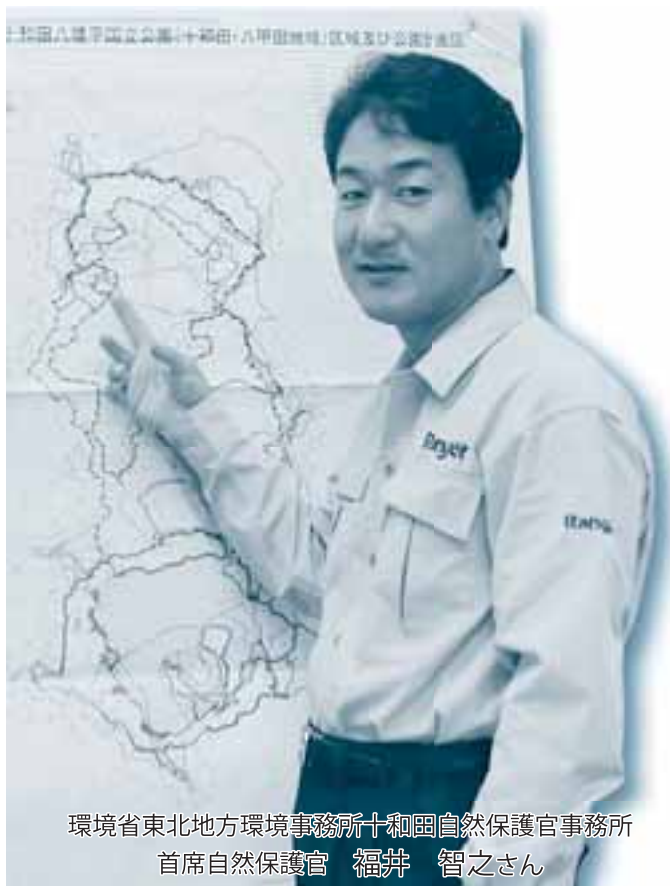
十和田湖畔の休屋地区は、宿泊施設や商店が立ち並び、十和田八幡平国立公園十和田・八甲田地域の主要な利用拠点となっています。近年は、十和田湖を訪れる観光客数が減少し、また、比較的滞在時間が短い利用が中心となってきています。

そのため、十和田湖を訪れた観光客にもっとゆつくりと、自然を楽しんでいただけるように、自然との触れ合いを推進するための拠点施設であるビジターセンターの再整備や、自然の中で快適に過ごしてもらったための環境整備について地区の住民のかたがたと話し合いを進めています。

全国に29カ所ある国立公園では、年間を通して、登山やハイキング、スキー、キャンプ、バードウォッチング、自然観察などのさまざまな催し物が企画されています。

国立公園の意義は、自然との触れ合いを通して、自然保護の思想を広めることです。

貴重な自然環境を守るためには、たくさんの方々が国立公園を訪れ、優れた自然に触れることで、自然を守ることの大切さを実感していただ



環境省東北地方環境事務所十和田自然保護官事務所
首席自然保護官 福井 智之さん

国立公園は自然保護の思想を学ぶ場です

くことが大切です。

日本の国立公園の制度は、ほかの土地利用や権利を排除することなく、これらとの調整を図りながら、自然の保護と適正な利用を進めていく仕組みになっています。現在の十和田湖の素晴らしい自然環境が守られているのは、その地域住民や観光客の皆さんの理解と協力があつたからこそだと思います。

この素晴らしい自然を守り、子孫に引き継いでいくためには、多くのかたが十和田湖の自然に触れ、自然保護への理解を深めることが必要です。

これからも地域のかたがたと協力して、観光客に質の高い自然体験を提供できるよう、快適な利用環境の向上に向けて取り組んでいきます。

JR東日本の声



JR東日本青森支店
支店長 舟越 勝美さん

2010年度の東北新幹線新青森開業に向けて、JR東日本では、新型車両の投入、時速300キロ運転による到達時分短縮、現在のグリーン車のほかにデザイン・静寂性などにこだわりの持った3列シートのスーパースタンド（仮称）連結など、いろいろな魅力付けを行って準備をしています。

一方、線路などの地上設備については、鉄道・運輸機構が着々と工事を進めていますし、新幹線駅前を自治体の皆さまが中心となり整備していただいています。そして、観光のお客さまを誘致しようといういろいろな分野のかたが知恵を出し合っているということをお心強く思います。

新幹線開業効果を最大限に引き出し、新規顧客開拓につなげるためには、観光資源の魅力アップ、情報発信、おもてなしの心、交通機関のアクセスのしやすさなどをしっかり結びつけることが大切です。新幹線開業効果が持続するように、JR東日本としても、おもてなしの心を大切に、できる限りの努力をしていきたいと思っています。